

そよかぜ地域研修体験記

朝来の自然に囲まれて過ごした1ヶ月間は、私の医療に対する視野を大きく広げる貴重な経験となりました。患者さんたちがどのような生活を送っているのか、どのようなことに困っているのか、ということを実際に目の当たりにする中で医療の本質と課題を深く理解することができました。

そよかぜ診療所での研修で印象的だったのは、医師と患者さんの関係性の深さです。そよかぜ診療所の方々は、患者さんの病歴だけでなく、家族構成や生活環境まで詳しく把握されていました。これにより、より適切な治療方針を立てることができるだけでなく、患者さんの生活全体を考慮したケアが可能となっていたように思います。この「顔の見える関係こそが、地域医療の強みであり、大学病院では得難いものだと感じました。また、この1ヶ月の研修期間で血液検査やエコー検査、レントゲン検査、ワクチン接種など日頃の診療で必要となる手技を幅広く、丁寧にご指導いただき、大変勉強になりました。検査の合間には患者さんと出身地や朝来での生活など世間話をする時間があり、忙しい中でも穏やかで心安らぐ時を過ごすことができました。

また、実習の中でそよかぜ診療所の設立15周年記念講演に参加する機会がありました。15年で地域に少しずつなじみ患者さんとその家族とともに歩いていったということが、講演会に来られていた参加者の方の多さでも身にしみて感じることができました。講演会の中でも特に印象に残ったのはそよかぜ診療所の歩みについてです。地域で医療を「する」、ではなく「はじめる」、ことの難しさを強く感じ、直面する課題を一つずつ解決していっただけでは進んでいけない地域医療の困難さを改めて実感しました。

今回の実習を通して医師としてのステップを一段登ることができたように感じました。ご指導ご鞭撻いただいた先生方やスタッフの皆様、毎日美味しい食事を作ってくださいました岡本家の方々、お世話になった地域の方々に厚く御礼を申し上げます。そよかぜ診療所での研修で得た学びを胸にこれからも研鑽を積んでいきます。